

令和4年度 学校評価報告書（目標設定・実施結果）

視点	4年間の目標 (令和2年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月20日実施)	総合評価（3月24日実施）	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1 教育課程 学習指導	<p>①生徒が自ら課題を発見し、解決する力や思考力・判断力・表現力等を育み探究する力の育成を目指した授業改善を行う。</p> <p>②時代や社会の変化に柔軟に対応できる資質・能力の育成のための教育課程の編成に取り組む。</p>	<p>①ICTを効果的に取り入れ、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた組織的な授業改善に取り組む。</p> <p>②77期生の新教育課程実施を踏まえ、学校全体で情報共有の機会を設ける。</p>	<p>①授業で活用したり、組織的な授業改善を進めたりできる内容のICT研修を継続的に実施するとともに、ICT機器の環境整備を行う。</p> <p>②前期、後期で教科会にて実施状況を情報共有し、さらに学校全体で情報共有する。</p>	<p>①全ての教科でICTを活用した授業を行ったか。また、生徒による授業評価において、深い学びを実感した人数が昨年より増えたか。</p> <p>②情報共有により得た課題等を教育課程編成にいかすことができたか。</p>	<p>①職員のニーズを踏まえてICT職員研修を4回実施した。全ての教科でICTを活用した授業を実施しているが、深い学びを実感した生徒の割合は伸び悩んでいる。ICT機器の環境整備については適宜行った</p> <p>②生徒による授業評価の結果を踏まえ、教科会等における情報共有を行った。</p>	<p>①生徒がICTを活用して、深い学びを実感できる授業展開のため、職員研修を充実させることが必要である。環境整備については引き続き行っていく必要がある。</p> <p>②77、78期生の新教育課程実施を踏まえ、学校全体で情報共有の機会を設ける。</p>	<p>①それぞれの授業に教職員の工夫が見られ、生徒のICT利活用が活発に行われていた。ディベート等を一層充実させてほしい。また、図書室や情報室を活用し、生徒の情報活用能力を高めてほしい。</p> <p>②学校教育目標を達成するための教育課程としてふさわしいものである。今後も見直しを続けてほしい。</p>	<p>①教職員対象校内研修等によりICTを活用した授業が多く行われているが、生徒に考えさせる教材や授業形態の工夫が課題である。</p> <p>②生徒による授業評価の結果を踏まえ、教科会等における情報共有を行った</p>	<p>①教育課程検討委員会の資料や総合教育センターの研修資料等を積極的に活用し、教職員対象校内研修充実させる。</p> <p>②新教育課程実施を踏まえ、各教科で情報共有する機会を設ける。</p>
2 (幼児・児童・)生徒指導・支援	<p>①生徒主体の学校行事や生徒会活動で培った力を学校生活や学習活動に生かせる生徒集団を育成する。</p> <p>②部活動の活性化を図り、安全面に配慮した活動や他者に対する思いやりのある行動ができる力を育成する。</p> <p>③健康や安全に関する学習活動や支援を通じ、生徒が安心して学校生活を送れる環境を整える。</p>	<p>①感染防止対策を講じ、安全に配慮した学校行事・生徒会活動の実現に向け、行事の工夫をする。リーダーの育成や責任を持つて取り組むことができる支援をする。</p> <p>②部活動の活性化に向け、部員総会や顧問総会での安全面での配慮や規定順守の共通理解を図りながら支援する。</p> <p>③安全な学校生活のための各種講演会、学習会を実施する。学年、教育相談校ディネーター、SCの連携をより充実させ、職員全体で生徒の支援にあたる体制構築を推進する。</p>	<p>①学校行事・生徒会活動を通して、主体性及び自他を尊重する態度の育成のために時代に合ったルールを作成や共通理解が得られるバランスの取れた行事設定を検討する。</p> <p>②顧問総会や生徒の部長会を通して、部活動の安全対策や部室管理に係る啓発を行い、重大事故発生の防止につなげる。</p> <p>③ICTを有効に活用し「性に関する講演会」「交通安全・携帯電話に関する学習会」を実施する。ケース会議、職員会議などで課題を抱えた生徒の情報と対応の共通理解を図り、生徒の支援にあたる。</p>	<p>①感染防止対策を講じ、生徒が活動のねらいやリーダーとして必要な力を意識して活動したか。グループと学年が共通理解を図り、リーダーの育成を支援できたか。</p> <p>②生徒自身が、部活動におけるけがや熱中症などの予防、感染防止対策に努めたか。安全面に配慮した部活動運営や地域にも貢献できる環境の整備ができたか。</p> <p>③講演会、学習会において生徒の気づきや学びがあったか。ICTを活用し、職員全体での情報共有が効果的にできたか。</p>	<p>①生徒は学校行事や部活動に主体的・積極的に参加できた。主体性及び自他を尊重する態度の育成に向けて支援することができた。</p> <p>②顧問総会(1回)や部活動の部長会(5回)を通して部室管理や安全に係る啓発を充実させ、重大事故発生を防止することができた。</p> <p>③1学年でICT教材等を用いた「性」「携帯電話」「薬物防止」に関する講演会・学習会を実施し、生徒の知識や意識を高めた。課題のある生徒に対しケース会議を適宜実施し、情報共有と課題解決に努めた。</p>	<p>①文化祭・体育祭・球技大会等、学校行事の感染防止対策を徹底し、安全に配慮した教育活動の実現に向け、生徒を見守り、支援体制の整備を進める必要がある。</p> <p>②命の尊重・感染防止対策・ケガの対処についての理解が深められるような機会を設ける。</p> <p>③より有効なICT関連の教材や外部の人材の開拓を推進する。教育相談コーディネータ、SCなどの組織や役割を明確にしていく必要がある。</p>	<p>①②感染防止対策を講じ、文化祭・体育祭が実施できたことは、生徒・保護者にとって有意義であった。今後は、新型コロナウイルス感染症と共存し教育活動を行ううえで、感染防止への意識が薄れないよう指導する必要がある。部活動や委員会をとおして指導を続けてほしい。</p> <p>③教育相談に係る生徒・保護者への対応を丁寧に行っていることは評価する。令和5年度は、SC、SSWの配置が増え、より充実した生徒支援が実現できるよう期待している。</p>	<p>①生徒は文化祭・体育祭・修学旅行等の学校行事や部活動に主体的・積極的に参加できた。次年度は行事の時期を大きく見直して実施する。</p> <p>②部活動において、科学の甲子園等外部のコンテストへの初参加など、主体性及び自他を尊重する態度の育成に向けて支援することができた。</p> <p>③講演会・学習会を実施し、生徒の知識や意識を高めた。課題のある生徒に対しケース会議を適宜実施し、情報共有と課題解決に努めた。SCやSSWと連携し適切な支援を行った。</p>	<p>①年間行事予定において学校行事を大きく見直し、安心・安全な行事の実現に向け3月から生徒会執行部を中心に準備を進めている。</p> <p>②感染防止対策を講じ、部活動等の学校外での活動を生徒に紹介し、積極的に参加を進める等の指導・支援を行う。</p> <p>③SC、SSWの配置が週1回となることを踏まえ、教職員対象研修の実施、生徒・保護者への周知を行い、教育相談の充実を図る。</p>
3 進路指導・支援	<p>①進路や将来の展望に対する、自己の高みを目指した目標設定及びその実現への支援を図る。</p>	<p>①生徒自身による現状分析を定期的に行い、学習時間の確保へとつなげる。</p>	<p>①生徒自身が学習計画と実際を把握できるシート等を作成する。</p>	<p>①ワークシートを作成し、活用した指導ができたか。</p>	<p>①進路DAYや模試等を利用し、生徒自身に現状分析をさせたが、その時だけの分析に留まっている。</p>	<p>①定期的な定点観測から日常的な観測・分析をするため、学年団・教科担当のこまめな声かけと共通認識に基づく支援が必要である。</p>	<p>①3年間の計画的な進路指導により、高い目標を掲げ、努力する生徒が増えてきており、後輩への励みになっている。</p>	<p>①生徒自身による現状分析を定期的に行うことにより、第1希望の実現につなげることができた。多様な進路に応じた個別支援を充実させる</p>	<p>①生徒自身による分析を年間計画に位置付け、3年間を見通した計画の作成を、進路グループを中心に行う。</p>

視点	4年間の目標 (令和2年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月20日実施)	総合評価(3月24日実施)	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
	②教育情勢を的確に把握し、適切な情報の収集と周知、共有に努めるとともに、組織的な支援体制を構築する。	②学年と教科の縦横断的な指導体制を深め、低学年時から将来についての意識を喚起し、向上心を養う。	②ファインシステムを導入し、活用する。教科指導と進路指導を両輪として、「実力」と「情報」を身に付けさせる。	②模試分析会の充実(教科の分析の充実)ができたか。適切な情報の精選と紹介ができたか。	②模試分析会を中心に、教科指導と進路指導がリンクする場面が増えてきた。	②生徒一人ひとりの状況について、教員同士が効果的に情報共有し個別理解をする方策を考える必要がある。	②外部の業者資料等を適切に活用し、生徒を支援してほしい。	必要がある。 ②模試分析会等の情報を、教職員が進路指導に適切に生かすことができている。	②ICTや教育情報を活用し、生徒のニーズに沿って分野別に、進路の現状や最新情報を効率的に収集し、提供する方法を検討する。
4	地域等との協働 ②「いのちを守る」ために主体的に行動する態度の育成を目指した防災教育を実践する。	①生徒が安心して学校生活を送れる環境を、地域や保護者と協力して作るとともに、生徒の主体的な地域貢献活動を推進するための方策を検討する。 ②「いのちを守る」ための主体的な防災活動・教育活動等を設定する。	①PTAと行っている登校時の交通安全指導を、生徒支援Gの登下校指導と連携して行う。活動支援Gと連携し生徒の主体的な地域貢献活動を実施する。 ②生徒が場面に応じて安全な行動をとるための実践的な避難訓練を行う。	①PTAと協力した登下校指導ができたか。生徒の主体的な地域貢献活動が昨年度より増えたか。 ②実践的な避難訓練を行ったか。避難訓練において生徒の気づきや学びがあったか。	①PTA、生徒支援部と協同して5/11・10/5に朝の挨拶運動を行った。地域貢献活動として、学校周辺の落ち葉拾いを中心とした清掃活動を行った。 ②学年別避難訓練を実施し、避難経路の早期確認を行った。登下校における安全確保のため、警察署と情報交換や巡回などの依頼を適宜行った。	①挨拶運動はPTA、地域住民と生徒とが接点を持つ機会になるので継続する。地域貢献活動の時期以外でも、環境委員長と共同で、学校周辺の清掃活動を行う。 ②避難経路の確認に終始してしまい、実践的な訓練には至らなかった。警察署や交通機関との情報共有をさらに密にする。	①②今年度は町内会と小学校が連携し防災に関する取組が行われた。今後は高校とも連携した取組を再開したい。PTAは挨拶運動・自転車点検等で学校と連携が図れた。今後もPTAとして様々な面で協力したい。	①PTA、生徒支援部と協同して朝の挨拶運動、自転車点検を行った。地域貢献活動として、学校周辺の落ち葉拾いを中心とした清掃活動を行ったが、新型コロナの影響で町内会との連携は図れなかった。 ②避難経路の確認に終始してしまい、実践的な訓練には至らなかった。	①校史資料室を活用し、同窓会との連携を図り、生徒・保護者へ学校の歴史を伝える等、同窓会と連携する。 ②他校の情報を収集、総教Cの防災研修の資料等を活用し、より実践的な防災訓練を計画する。
5	学校管理 学校運営 ②学校全体で校内美化に取り組み、生徒自身に環境整備に参画する意識を持たせる。	①施設・設備の日常点検を行うとともに、改善箇所の迅速な対応を行う。 ②コロナ禍における新しい生活様式への生徒の意識と理解をより深め、自分で考え環境をよりよく整えていく実践力を高める。	①安全確保、環境整備の為に施設・設備の日常的な点検を行うとともに、修理や改善、物品の補充等に迅速に対応する。 ②コロナ感染対策を意識しながら私物の管理整頓や清掃活動を行うことにより生徒の意識と実践力を育てる。	①施設・設備の問題点に関して迅速に対応できたか。 ②校内における換気・消毒等の感染対策が徹底できたか。校内の廊下・階段等の清掃状況、教室や部室における生徒の私物の整理状況が昨年度より改善されたか。	①計画的な机・椅子の購入計画に基づき、教室や体育館の机や椅子の修繕、購入をした。 ②教室、昇降口、洗面所等に手洗い洗剤、消毒液を備えた。資料「コロナ禍における新しい生活様式」を作成した。掃除場所分担職員、クラスの組織図を作成し校内清掃を実施した。	①今後も計画的に修繕や購入をしていく必要がある。 ②地域の新型コロナ関連状況を把握し、県の指針の即した「新しい生活様式」を策定し、職員、生徒に周知、実施する。	①②トイレ改修工事により生徒の学習環境が改善された。次年度はPTAとして環境整備に協力できるよう準備する。 ②生徒の生活動線に沿って手洗い用洗剤、消毒液を効果的に備えた。資料「コロナ禍における新しい生活様式」を作成した。掃除場所分担職員、クラスの組織図を作成し校内清掃を実施した。	①トイレ改修工事や給水器の活用等、安全面・衛生面に配慮し、計画的に環境整備を行う必要がある。 ②生徒の生活動線に沿って手洗い用洗剤、消毒液を効果的に備えた。資料「コロナ禍における新しい生活様式」を作成した。掃除場所分担職員、クラスの組織図を作成し校内清掃を実施した。	①施設・設備の管理に関して、生徒、保護者、教職員に情報周知し、安全面や環境問題に対する意識を高めることにつなげる。 ②生徒の委員会を活用し「新しい生活様式」を適切に実践するとともに、自分で考え、自ら環境を整えていく意識を高める。